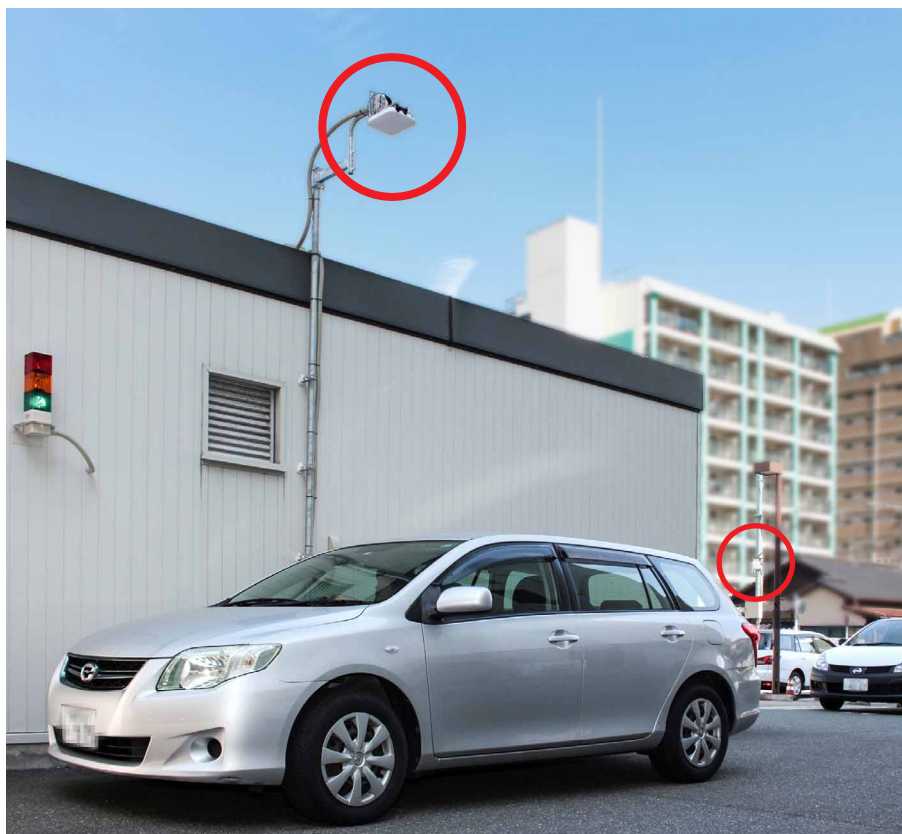


# 無線LANアクセスポイントで駐車場に通信環境を整備 社用車のドライブレコーダー映像をワイヤレスで自動収集



ドライブレコーダー映像を自動収集するシステムを構築

## 導入先

### 西部電気工業株式会社さま

- 福岡県福岡市(本社)
- 1947年設立。情報通信インフラ建設・整備を中心に事業を発展。ICT技術によるビルやオフィスのスマート化、環境保全に寄与する新エネルギー関連システムの構築なども推進。



## 導入商品

### 無線LANアクセスポイント

QX-C300J×2台

- 2018年8月導入。社用車のドライブレコーダー映像を自動収集するシステムにおいて、駐車場における無線通信手段として採用。

販売：株式会社フルノシステムズさま

## こんなソリューションを実現しました。

### 導入前の課題

社用車のドライブレコーダー映像をメモリーカードから回収する手間を削減するため、Wi-Fiを利用して映像データを自動収集する独自のシステムを開発しましたが、問題はLANケーブルの敷設が困難な会社の駐車場で、いかに簡単かつ低コストに通信環境を整備するかでした。

無線LANアクセスポイントの活用で駐車場にワイヤレスで通信環境が整備でき、工事も簡単・低コストに。

ドライブレコーダーとのWi-Fi接続と、アクセスポイント同士のバックホール接続の高速・安定通信に満足。

ドライブレコーダー映像の自動収集システムが完成。収集作業が効率化、社員の安全運転意識も向上。



西部電気工業株式会社

安全品質推進本部	ビジネス営業本部	ソリューションビジネス事業部
統括担当部長	ICTビジネス部	ソフトウェアビジネス部
池田 武史さま	主任担当課長	担当課長
	藤澤 修司さま	松本 潤二さま

■ 導入の背景

ドライブレコーダー映像の自動収集システム構築へ。駐車場で通信環境をいかに整備するかが課題。

安全運転を推進するため、社用車のドライブレコーダー映像を回収していますが、毎回メモリーカードを取り出して、会社の映像サーバーにデータを取り込むのは手間のかかる作業でした。そこでWi-Fiを利用して自動的にドライブレコーダーからサーバーに映像データを転送できるシステムを当社で開発しました。ただ、社屋と駐車場との間に必要な通信環境を整備するには、大がかりなLANケーブルの配管・配線工事が必要なのがわかり、ネットワーク構築方法に悩んでいました。

■ 選ばれた理由

アクセスポイント同士をつなぐバックホールも無線。通信ケーブルが不要で設置工事が簡単・低コスト。

ネットワーク構築方法を検討する中で着目したのが、シャープ製の無線LANアクセスポイントでした。機器同士をむすぶバックホールも無線接続なので、機器間の通信ケーブルが不要となり、簡単・低コストで導入できます。また、屋外での使用を前提とした高い耐候性、高画質な映像ファイルを安定して高速に転送できる通信能力も評価して、採用を決定しました。

■ 導入後の効果

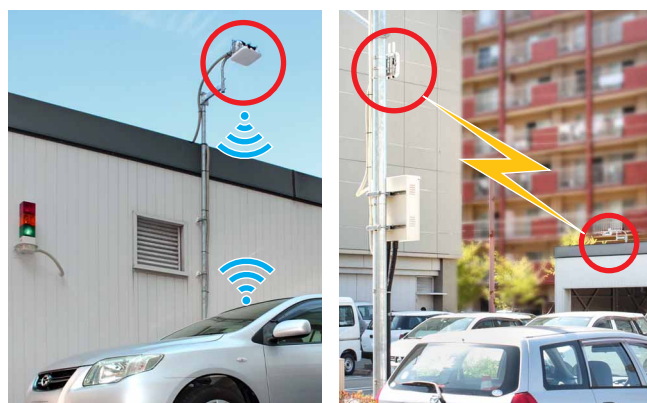
Wi-Fiを活用した映像自動収集システムが完成。収集の効率化と安全運転意識の向上に貢献。

無線LANアクセスポイントの活用で駐車場に通信環境が整い、ドライブレコーダー映像の自動収集システムが完成しました。帰社した社用車がWi-Fiスポットに停車すると、映像収集ソフトが作動し、ドライブレコーダーからイベント発生時の映像やランダム抽出した映像をサーバーに自動転送。これにより、①映像回収作業にかかる手間の削減、②データ紛失や回収ミス・改ざんの防止、③メモリーカード抜き差しによる故障の防止、④社員の安全運転意識のさらなる向上、といった効果が生まれています。

■ 今後の展望

「一旦停止抽出型」から「駐車場カバー型」へ。当社のお客さまにも本システム導入をご提案。

現在は駐車場の特定の場所だけをWi-Fiスポット化し、そこで映像を取り込む「一旦停止抽出型」システムですが、無線LANアクセスポイントを増設して、駐車場すべてをWi-Fiスポット化する「駐車場カバー型」への移行を計画しています。これにより駐車場のどこに車を止めても映像を自動収集できるようになります。今後さらに社内運用と検証を重ね、同じ悩みをお持ちの当社のお客さまにも本システムをご提案していきたいと考えています。



(左) ドライブレコーダーの映像データをWi-Fi接続を利用して収集  
(右) 無線バックホール接続を利用して転送し、社内サーバーへ

■ ドライブレコーダーの映像収集システム概要



■ 無線LANアクセスポイント配置図



アクセスポイントを追加し、「一旦停止抽出型」から「駐車場カバー型」へ